

令和6年度 公益財団法人山形市文化振興事業団事業計画

1 山寺芭蕉記念館

(1) 展示事業

① 特別展「開館 35 周年・芭蕉生誕 380 年記念 芭蕉と江戸時代（仮称）」

(11月2日～12月16日)

芭蕉生誕 380 年を記念し、芭蕉の真筆を多く展示して芭蕉の俳文学を探るとともに、芭蕉の感性を育んだ江戸時代の文化・芸術を紹介する。

関連事業としてギャラリートークを実施する。

② 企画展「芭蕉の周辺と蕉門」（4月12日～6月16日）

芭蕉が師事した俳人や門人などの作品を公開し、芭蕉と蕉門が当時の俳諧文化に与えた影響を紹介する。

関連事業としてギャラリートークを実施する。

③ 企画展「妖怪」（6月14日～8月29日）

江戸時代から現代までの妖怪に関わる歴史資料や美術作品を公開し、日本文化の一端を紹介する。

関連事業としてナイトミュージアム、ギャラリートークを実施する。

④ 企画展「収蔵名品展（仮称）」（12月20日～2月17日）

収蔵品の中から名品を展示する。㊦長谷川コレクションやえぼら 頼原退蔵・尾形 仿コレクションなど芭蕉関連以外の名品なども公開する。

関連事業としてギャラリートークを実施する。

⑤ 企画展「お雛さまの美（仮称）」（2月21日～4月7日）

江戸時代の雛人形を中心に展示して桃の節句の歴史を紹介するとともに、雛人形に用いられた紅染と紅花交易の関係にも触れた展示を行う。

関連事業としてギャラリートークを実施する。

(2) 普及啓発事業

① 開館 35 周年・芭蕉翁生誕 380 年記念 第 67 回全国俳句山寺大会（7月7日）

俳句の普及と振興をはかるため、山寺文化保存会と共催し、名勝山寺の地で、芭蕉が訪れた時期に句会を開催する。

② 第16回山寺芭蕉記念館英語俳句大会（7月）

英語俳句を通して俳句の更なる交流促進、俳句文化の国際交流をはかるとともに、英語教育や文化に寄与することを目的とする。

③ 第55回芭蕉忌俳句大会（11月17日）

俳句の普及と振興をはかるため、山形県俳人協会と共催し、山寺の地で芭蕉を偲び句会を開催する。

④ 第31回山寺芭蕉記念館文化セミナー（9月～10月頃）

広い視野で日本文化と歴史を見つめる講座を開設し、市民文化の向上をはかるとともに新たな視点を提示する。複数回連続講座。

⑤ 奥の細道ボランティアガイド講座（仮称）（秋頃）

当館ボランティアガイドを育成する講座を「奥の細道マイスターの会」及び山形大学と連携して開催する。これにより職員とボランティアガイドが協力して展示説明の充実をはかるとともに、インバウンド対応も行う。

⑥ 芭蕉を偲んで投句しよう 一般の部・小中学生の部（通年）

俳句の普及をはかるため、山寺芭蕉記念館内や立石寺境内等に投句箱を設置し、山寺観光協会と協力して投句選を行う。

⑦ 市民茶会

抹茶または煎茶の呈茶を行ない、茶道作法など、茶道文化の啓蒙普及をはかる。

⑧ 茶房 芭蕉堂（通年、但し市民茶会開催日を除く）

抹茶の呈茶を行ない、茶道文化に親しむ一助とする。

⑨ 山寺感謝の茶会（11月23日）

山寺地区民に対し、平素から山寺芭蕉記念館の事業に理解と協力を頂いていることへの感謝の意を表して呈茶を行い、茶の湯に親しむ機会とする。

⑩ ICTを活用した情報発信

インターネットを媒体として、ホームページやSNS（フェイスブック）を活用して、広報活動や松尾芭蕉・山寺等に関する情報を積極的に発信す

る。また、インバウンドの推進による外国人旅行者の増加に対応するため、収蔵品の説明の多言語化などわかりやすい情報発信に取り組む。

⑩『山寺芭蕉記念館だより』〔年1回〕

事業の予告や報告、芭蕉及び「奥の細道」に関する情報の提供を行ない、山寺芭蕉記念館の活動の周知に役立てる。

(3) 調査研究事業

①収蔵資料台帳デジタルアーカイブ化事業

当館所蔵の収蔵資料の台帳整備とデジタルアーカイブに向けた作業を継続して行い、情報の発信に役立てる。

2 最上義光歴史館

(1) 展示事業

①企画展「(仮称)市民の宝モノ 2025」展 (1月8日～3月30日)

山形市民を対象に、秘蔵する「宝モノ」を募集して、歴史館で選考して展示し、広く一般に公開する。閑散期に参加型の展覧会を開催することで、施設活動に対する山形市民の関心を高め親しめるものとする。

②常設展

最上義光を主とした最上家関係資料と山形城関係資料、山形に関わる文化財などを展示紹介しながら、下記のテーマによるコーナー展示を行う。

1) 企画展示1「鐵の美 2024～ 綾杉のきらめき - 刀工月山～」

(4月3日～6月30日)

収蔵刀剣の公開を行い、武器であり美術品でもある話題の日本刀の魅力を紹介する。山形ゆかりの刀工集団で、室町時代に活躍し綾杉肌という独特の鍛え肌が特徴の月山刀工を紹介し作刀を展示公開する。

2) 企画展示2 (仮称) 屏風絵展 (7月3日～9月29日)

収蔵資料から屏風絵の展示を行い、いにしへの絵師が大画面に表現した迫力ある絵画を鑑賞する機会とする。

3) 企画展示3 (仮称) 最上義光と連歌展 (10月2日～1月5日)

収蔵資料から最上家ゆかりの連歌に係わる資料を中心に展示し、最上家の文化水準の高さや連歌師里村紹巴と最上家との係わりなどを紹介する。

(2) 普及啓発事業

① 歴史講座

1) こども講座

小学生を対象に最上義光を学ぶ機会をつくることによって、郷土史に対する関心と理解を深め、愛郷心の育成を図る。

② ボランティアに係わる事業

最上義光の啓発のため、来館者への案内や説明などのサービス提供を担うボランティアによる歴史館のサポーターで組織する市民団体「義光会」を支援する。

1) 「義光塾」〔年3回〕

最上義光や郷土の歴史について多角的に学習して、来館者に対して幅広い知識で説明が可能となるようにスキルアップを図る。

2)「現地研修会」〔年1回〕

最上家や郷土の歴史に関する史跡等について、現地に赴き視察研修することによって、ボランティアの郷土史と文化財に対する理解を深め、来館者に対してより質の高い説明ができるようにスキルアップを図る。

③ ICTに係わる企画と情報管理

ホームページを活用して様々な情報を発信するとともに、企画から物販まで幅広く展開する。展示事業とリンクさせて、映像をはじめとする様々な情報をICTに係わる媒体を介して提供し、最上家や郷土の歴史、山形の文化遺産等の啓発も行う。

また、インバウンドへの対応や文化観光推進のため、多言語化やfree-WiFiの整備を行うとともに、山形城御城印の販売も引き続き取り扱う。

④『歴史館だより』〔年1回〕

歴史館の事業報告や、山形の歴史や最上家に関する研究や考察などの最新情報を年刊紙面にて広く提供する。ICT事業にリンクさせ、論文やコラム等は個別にホームページへ記事掲載を行うことで、ホームページからのダウンロードを可能とする。

(3) 調査研究事業

① 最上家関係資料・史跡調査〔継続事業〕

県内外に残る最上家等に関わる文書資料や文化財・史跡などの調査研究を進め、写真撮影等による記録保存及び目録作成、複写等の資料整備を行う。

② 収蔵資料台帳デジタルアーカイブ化事業

当館所蔵の収蔵資料の台帳整備とデジタルアーカイブに向けた電子化作業を行い、資料の有効保存と情報の発信を目指す。